

令和2年5月19日

公益財団法人日本高等学校野球連盟様  
株式会社朝日新聞社様

<趣意書>

5月15日、夏の甲子園。全国高等学校野球選手権大会が中止となる方向で検討されていると報じられました。もし、中止となれば、戦後初。予選から臨む高校球児達の総数は143867人(令和元年高野連調べ)います。高校球児にとっては出場するもしないも、挑戦することすらも許されず、かけがえのない思い出自体が無くなることになります。しかも、選抜高校野球大会も中止となり、春季地区大会も中止。高校三年生にとっては、何一つチャレンジする機会すら奪われる学生時代になってしまいます。

様々な問題はあることは理解します。そして、野球だけではないとも思います。けれど、今後世界はワクチンができ、安心して生活ができるまで、コロナウィルスと共存しながら生活をしていかなければなりません。感染者数の減少傾向、対策を施した形での経済再開、学校開催への動きがある中、大会自体の中止はあまりにも残酷です。感染のリスクを最大限に減らし、関係各所と連携し、スケジュール調整を最大限に考慮することで、開催することを渴望します。そして、多くのスポーツが少しずつでも活動できるきっかけになることも切に願います。子供達の二度と帰ってくることをない、学生時代の挑戦を奪う権利は誰にもないと思います。

私は現在、アスリートを目指す、中学生の子供達をトレーニングでサポートする会社を運営しています。彼ら達は純粋で、真っ直ぐで、甲子園を夢見て、一生懸命練習に取り組んでいます。学生なので、学業が優先であることは理解します。しかし、部活動を通じて、目標への執着心。その過程で学ぶチームワークや葛藤。これ自体が最高の教育になるのではないのでしょうか。

日程の変更。対策の強化。無観客試合の検討。移動時のリスク回避などを吟味し、スポーツに関わる人間として、子供を育てる親として、以下の結果となることを強く求めます。

・全国高等学校野球選手権大会の開催。すなわち夏の甲子園の開催。

2020年5月15日

発起人 株式会社 Athlete Works 徳丸博之